



一心寺（大分市）

目 次

令和2年度を迎えて	2	新年院内職場対抗ボーリング大会を開催して.....	6
医局紹介 九州リンパ浮腫センターの取り組み.....	3	地域医療連携室だより	6
令和元年度QC活動発表会の開催について	4	新任のご挨拶.....	7
令和2年 成人式を開催して	5	職場紹介	8

理 念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基 本 方 針 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献
5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さまの権利 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利
5. カルテ開示を受ける権利 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利



日本医療機能評価機構
認定番号: JCI1505号

令和 2 年度を迎えて



院長
後 藤 一 也

西別府病院の広報誌をご覧ください誠に有難うございます。平素は大変お世話になっておりますこと感謝申し上げます。令和2年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

病院周囲の桜が咲き誇る中、退職者、転出者あわせて40余名を送り、新採用者、転入者あわせて50余名を迎えて新年度が始まりました。新型コロナウイルス感染症のため諸行事が中止される状況となっておりますが、尚更、院内感染防止に継続性、迅速性を持って取り組んでいかねばならないという思いを強く持ちます。

さて、令和2年度は、「西別府病院は地域になくてはならないセーフティーネット系医療を提供していく」ことを、これまで以上に意識して、より良い医療の質と経営基盤の確立に努めます。当院の経営状況や取り巻く医療環境（地域医療構想、働き方改革など）は非常に厳しい状況ですが、これを好機として捉え10年後20年後を見越した将来構想の実現に取り組みます。令和2年度はその出発点と位置づけております。

令和2年度の病院目標として「経営基盤の確立」「医療の質の向上を通じた地域医療への貢献」「適正、効率的な業務運営の実践」の3つと、病院目標に係る13の重点課題を掲げました。3つの病院目標は三位一体となり連関、連環するもので、職員が力を合わせ“積土成山”の心づもりを目標達成に取り組めます。

その評価は、患者さんやご家族のお声はもちろんのこと、連携施設の方々からの忌憚のないご意見が何よりの目安となります。今後とも引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

文字通り厳しい船出となった令和2年度ですが、皆様にとりましても、今日より明日、今月より来月が少しでも好転することを祈念申し上げます。

医局
紹介

九州リンパ浮腫センターの取り組み

センター長（外科部長） 唐 原 和 秀

浮腫は、多くの原因によって発症しますが、リンパ浮腫は、特にリンパ流が障害されて起こる局所性浮腫であり、多くは、乳癌や婦人科癌手術の後遺症として、主に四肢に発症します。九州リンパ浮腫センターは、2008年にその前身であるリンパ浮腫治療室を開設、2012年にセンターへと改組され浮腫全般およびリンパ浮腫に特化して12年間診療を続けてまいりました。現在、医師1名、セラピスト4名の体制で診療にあたっております。お陰様で、これまでに全国各地から約1000名のリンパ浮腫患者さんと500名のその他の浮腫患者さんを受け入れることができ、数少ないハイボリュームセンターになっております。治療は、世界的に標準的な保存的治療であるフェルディ式複合的理学療法を中心として、体重管理、蜂窩織炎の予防、筋肉トレーニングを加えた複合的療法および、様々な浮腫に伴うリンパ漏、難治性潰瘍、蜂窩織炎の治療を原則として入院で行っております。しかし、残念ながら疾患の認知度、治療法などについての認知度は決して十分とはいええず、治療施設やリンパドレナージュセラピストも不足した現状です。また、個々セラピストや関心を持った医療従事者の熱意は非常に高いのですが、その教育環境もまた十分とはいえない状況です。そこで、我々は、数少ない専門施設として、開設以来、全国の患者さんやセラピストさん、その他の医療従事者を対象とした社会的な啓発活動も散発的に行っており

ましたが、2019年度から年間3回を目標に、定期的な教育セミナーを開催することといたしました。このセミナーは、第一に日本リンパ学会理事の加藤征治先生（大分大学名誉教授）にご協力いただき、学会の公認を得ることができたため、セラピストの更新単位が得られること、次に、講師を医師、栄養士、理学療法士、セラピストなど多職種で行うこと、さらに、講義だけでなく実技指導も行うことを特徴としております。昨年の7月13日に第1回セミナーをセラピスト対象に、11月9日には、第2回セミナーを医療従事者全般に広げていずれも当院で開催いたしました。今回は、患者さんや一般の方を対象としたセミナーを開催する予定です。これからも、少しでもこの病気を医療従事者や患者さんに知っていただき、治療者の質の向上を図りより良い治療へと結びつけることができるように、これからも頑張っておりまして、ご協力、応援の程よろしくお願い申し上げます。

担当医師 唐原 和秀

（外科部長兼九州リンパ浮腫センター長）

大分医科大学（現大分大学）卒

日本外科学会認定専門医

日本消化器内視鏡学会認定専門医

日本消化器外科学会認定医

日本内視鏡外科学会技術認定

日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士指導医



令和元年度QC活動発表会の開催について

令和元年度 QC 活動委員長 検査科 山下 祐 一

去る3月5日(木)15時から令和元年度QC活動発表会を開催しました。今年度は検査科が委員長担当ということで1年間委員長を務めさせて頂きました。QC活動の活動経験に乏しく、また4月から転勤してきたばかりで何もわからず委員会開催に当たり、QC委員の皆様にはご迷惑をお掛けしました。また、助言をしていただき随分助けて頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

7月に副院長による「QCの基本と手法」の講義を受け、1年間の活動計画を立て、各部署の身近な業務改善について取り組んで頂いたQC活動の発表会となっております。1年間で完結しなくても良いので次年度に継続して活動できるような職員の活動内容が多く見受けられたと思います。また、継続して行えるような手順書や管理体制も考えて様々な課題に取り組んでいると思われます。職員がこの活動のような意識を持つことは西別府病院の将来に向け良い方向に導いていくことであると思います。今年度の発表は8チームからの発表となり前年度同程度の発表数となりました。各部署職員の意識の高さが見受けられる発表内容だと思いました。

さて内容ですが、コード整理グループ(東1・東5・中2・中4)のベッド周囲の床にコードが這わないことを目的とした「コード整理のマニュアル化、継続できるシステムづくり」、綺麗にし隊(東2・東3・東4・手術・中材)の環境整備の定着化に向けルビスタクロスの使用量を増やすことを目的とした「環境整備で菌も気分もスッキリ～環境整備の定着化に向けて」、薬剤部の簡易懸濁の体制を整備し適正な運用へ見直しを行う「簡易懸濁の見直し」、患者誤認をなくし隊(放射線)の患者バーコード・ベットネーム運用について理解を深めることで未持参を減らす「患者誤認防止の取り組み」、ムダ・ムラ・ムリを減らし隊(検査科)の不採算検査項目を見直しコスト削減を目的とした「検査項目の迅速性とコストの最適化～業務の効率化・省力化～」、えいよう料理の宿(栄養管理室)の業務の標準化・効率化・見える化を試みた「経営視点での業務の見える化と定着・標準化」、療育指導室によるタイトルそのままに「電気使用量の削減～できることからコツコツ

と～」事務部の業務の効率化による経費削減を目的とした「コストを減らせ!!」の以上8つでした。

評価の項目を昨年度より変更し、「テーマに沿った内容であったか」「説明は分かりやすかったか」「改善のねらいが明確か」「十分な効果を上げているか、または期待できるか」「業務の質向上と継続の実現性」について5点満点の5段階評価で採点しQC委員会構成員の方は自分の所属するチームを除いて採点する事とし平均点で順位をつける事としました。

評価結果は以下のとおりとなりました。(25点満点の平均点)

最優秀賞

- ・検査項目の迅速性とコストの最適化
～業務の効率化・省力化～ (検査科) 21.0点

優秀賞

- ・経営視点での業務の見える化と定着・標準化 (栄養管理室) 20.4点
- ・患者誤認防止の取り組み (放射線科) 20.2点

もう少し長く発表時間を設けたり参加部署を増やしたり、もっと活発なQC活動になるよう次年度に向けた課題や問題点を今後、改善を行いながらより良きQC活動が行えるような委員会でありたいと思います。またQC委員会で様々な課題を取り決め病院の部門間の連携意識の強化ができるよう努めて参りたいと思います。





令和2年 成人式を開催して

療育指導室 保育士 松石 菜々



令和2年1月15日(水)、今年度も療育ホールにて成人式が開催されました。

今年度は東1病棟(療養介護)の入所者1名と、多機能型事業所(ひだまり)の利用者1名の計2名が、新しく大人の仲間入りをされました。参列者のあたたかい拍手に包まれ、ボランティア「りんごの会」の素敵なピアノ演奏とともに会場にご家族と入場されました。今年度は6社の新聞・テレビの取材があり、新成人者も緊張されているようでしたが、これから大人としての新たな生活を迎えるにあたり、希望に満ちた姿にも見えました。

新成人者紹介は受持ち看護師より行いました。また、幼少時代からこれまで過ごされてきた数々の思い出をDVDにまとめ、ご紹介させて頂きました。涙ぐまれたり、感慨深げにスクリーンを見つめたりするご家族や参列者の姿がありました。

新成人者代表挨拶では、代表者が「これからたくさんの方と出会い、楽しく過ごしていきたい」と挨拶をし、職員と作成した「感謝」と書かれた書を披露されました。

来賓として、別府市教育長、別府市障害福祉課長、大分県立別府支援学校石垣原校校長、日本筋ジストロフィー協会大分県支部長、重症心身症児(者)親の会「わかば会」会長にもご臨席いただき、祝辞を頂戴しました。

友人代表挨拶では、新成人者を幼少期から知る東1病棟の入所者の方が「たまには休憩も忘れず、○○くんらしく頑張ってね」と挨拶をされました。

今年度は「365日の紙飛行機」を、お祝いの歌として選曲しました。参列者が心を込めて歌う声で会場全体があたたかい雰囲気に包まれました。きっと新成人者とご家族の心に届いたことと思います。

成人式は人生の大きな節目のひとつであり、大人としての第一歩を踏み出すスタートラインです。これから幾多の困難や楽しいことが待っていると思われます。この成人式が心に残る式となると共に、これからのお2人の困難を乗り越える糧となり、幸多い未来への希望のひとつとなることを願っています。

今年も多くの方々に支えられ、心温まる成人式をすることができました、ご多忙中にもかかわらず御臨席いただきました来賓の皆様、職員の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

そして、成人を迎えられたお2人、ご家族の皆様にあらためて心からお慶び申し上げます。この度は成人、おめでとうございました。



新年院内職場対抗ボーリング大会を開催して

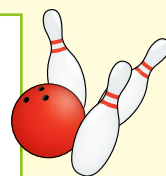
看護師長 佐藤 恭子

令和2年1月31日(金)、西別府病院初めてとなる「職場対抗ボーリング大会」が開催されました。職場間の交流を深める事を目的に事務部、看護部一丸となって企画をし、参加者、応援者を含め100名超の職員が集合!! 外部の先生参加や子供さん同伴の職員もいましたよ。「ストライク!」には歓喜の声、「ガーター」には笑いがあり、笑顔が絶えない楽しい時間を過ごすことができました。院長先生をはじめとする4役から、職場賞、レーン賞、個人賞、BB賞と素敵な景品が授与されました。初めての試みで企画した「職場対抗ボーリング大会」でしたので、幹事である私達は

不安な気持ちを抱えていました。しかし、参加した職員の満面の笑みをご褒美としていただくことができ、ホッと安堵。今回の企画には、各職場長の皆様の職員への声かけがあったことは言うまでもありません。西別府病院の職場間を通した一体感を感じることができる「職場対抗ボーリング大会」、次回はあなたも参加してみませんか。

職場別順位

1位	東4病棟	280点
2位	リハビリ	266点
3位	療育指導室	261点



地域医療連携室だより

医療社会事業専門員
牧内 寛 弥

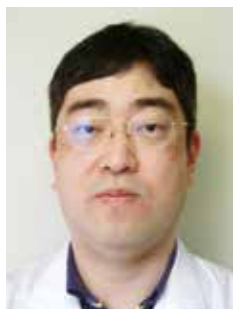
去る2月18日(火曜日)、西別府病院第13回病診連携セミナーを開催いたしました。近隣の医療機関のスタッフや関係者の方々に多くご参加をいただきました。今回のセミナーのテーマは「在宅でできる口腔リハビリテーションー歯科衛生士の立場からー」としまして、当院の原主任歯科衛生士が講義を行いました。口腔ケアとは、口腔内の疾病予防、健康保持増進によりQOLの向上を目指した科学的技術である、の言葉から始まった今セミナーは、口腔機能向上がQOLの向上に繋がっていることが良くわかる講義でした。

講義の内容は、芸能人をモチーフに口腔内の事情から歯周病のリスク、今セミナーのテーマでもある口腔リハビリテーションと幅広い内容となっていました。特に中盤から終盤にかけての、あめ玉やガムを使った模擬テストや口腔体操は好評でした。参加者の方々はメモをとり、時には談笑し、とても熱心に講義を聞かれていました。講義の最後に、日本人はかかりつけの歯科をもっていないことを課題に挙げられ、その定期歯科検診率は15%程度となっているそうです。今講義で口腔内に潜んでいる菌の動画を見る機会がありましたが、定期的な歯科受診が必要であると思う内容でした。定期的な歯科受診が普及すると、QOLの向上に繋がり医療費削減に繋がるのではないのでしょうか。講義終了後には、原主任歯科衛生士に直接質問される方もいらっしゃり、今講義の必要性について再認知しました。

新年度も不定期ではありますが、病診連携セミナーを開催していきます。時期が近づきましたら御案内させていただきます。セミナーを通じて地域医療に貢献して参りたいと考えておりますので、近隣の医療機関のスタッフの皆様におかれましては、ご参加のほど心からお待ちしております。



新任のご挨拶



内科医師
中 野 哲 治

4月より内科に着任致しました中野哲治と申します。専門は呼吸器内科です。大分医科大学を平成9年に卒業し、医師となって今年で24年目となります。前職は同じ国立病院機構の大分医療センターに8年半ほど勤務していました。その前には別府市内の病院に約3年半勤務しており、久しぶりの別府市内での勤務となります。早く西別府病院のシステムに慣れ、当院の一員として、これまでの経験を活かし、またスキルアップしながら、呼吸器疾患のため悩まれている患者さんに寄り添った医療を提供できるように頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



小児科医師
植 田 里 枝 子

令和2年4月に小児科医師として着任いたしました植田里枝子（わさだりえこ）と申します。平成13年に大分医科大学（現大分大学）を卒業、同小児科教室へ入局し、以後大分県内各地の病院で勤務して参りました。医師になって20年経とうかという年ですが、自身の専門分野を決めきれずに現在に至っております。小児科医になって10年目頃、そろそろ専門を決めて、多少なりとも自分の個性を診療に反映できるようになりたい、と考えたりしましたが、明確な行動を起こすことなく月日は流れ、気づけば自分の年齢も40半ばになり、医者として仕事ができるのはあと何年かな、など考えるようになりました。以前から興味があった小児神経、重症児者医療分野について、ここ数年いくつかの勉強会へ参加しながら自分なりに勉強をして来ました。まだまだ不勉強で力不足な私ですが、できることを一所懸命行い、お役に立てるよう努めて参ります。よろしくお願い致します。



神経内科医師
渡 部 優 子

4月1日付で大分大学医学部附属病院から赴任して参りました渡部優子と申します。私は岡山県出身ですが、大学入学時に大分に引っ越してきてから大学卒業後も大分に居座り、今ではすっかり大分に馴染んで生活しております。初期研修後、大分大学神経内科に入局し、大学病院の他、県内各地の病院で神経内科診療に従事して参りました。途中、産休・育休もありましたが、現在は育児と仕事の両立を目指すべく、日々奮闘しているところです。

神経内科で診る疾患はしびれやめまい、頭痛といったよくある症状から筋萎縮性側索硬化症（ALS）などといった難病まで非常に幅広く存在します。西別府病院は県内でも難病の拠点病院として大きな役割を果たしている病院として認識しております。そのような病院に今回勤務する機会に恵まれたことに感謝し、日々の診療を通して自己研鑽に努め、微力ながら神経内科診療に尽力したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

職場紹介

西別府病院で働くスタッフを
毎回紹介しています。
この科はどんな診察をするの？
この部署はどんな仕事なの？など
意外と知らない病院のこと
覗いてみませんか

放射線科

当院の放射線科は放射線科診断専門医 1 名、診療放射線技師 3 名、合計 4 名の職員で診療放射線検査業務を行っています。放射線科では、医師又は歯科医師の指示の下に、一般撮影検査および CT 撮影検査、MRI 撮影検査、骨密度検査、透視撮影検査に従事しております。「私たちは常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します。」という病院理念のもと、基本方針として、「1. 最新・最良の技術・知識を習得し、診断画像の向上に努めます。2. 線量低減を行い、最適な診断画像を提供します。3. 患者様の人権を尊重し、安全で最良の医療を実践します。」を掲げ、診療放射線検査業務に取り組んでいます。

4 月からは、「医療放射線に係わる安全管理体制」が規定され、医療被ばくの線量管理を行うことになりました。放射線防護の最適化ツールとして、日本での診断参考レベル Diagnostic Reference Level (DRL) があります。CT 検査の被ばくの線量を例として以下に示します。

当院での被ばく線量と診断参考レベルDRLの比較

CT

●標準体格における吸収線量

	CTDI vol		DLP		実効線量
	当院平均	DRL	当院平均	DRL	当院平均
頭部単純	61	85	1270	1350	2.7
胸部1相	13	15	545	550	7.7
胸部-骨盤1相	14	18	1081	1300	16
上腹部-骨盤1相	18	20	960	1000	15

注1) 標準体格は体重 50 - 60 kg

注2) CTDI volの単位はmGy、DLPの単位はmGy・cm、実効線量の単位はmSv

いずれも診断参考レベルより低い値を示しており、適切な診療放射線検査をいたしておりますので安心して、ご利用いただければ幸いです。

(診療放射線技師長 二保 忠紀)

中2病棟



小児と成人の混合病棟で、急性期から慢性期、終末期の一般、小児、神経・筋、重症心身障害などの疾患で小児から老年まで幅広い発達段階の患者の看護を行っています。医師・理学療法士・作業療法士・栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカーなど多職種で、定期的カンファレンスをして患者中心の看護を提供するようにしています。患者さんの高齢化や認知症状のある患者が増え、疾患の複雑化に加え、重症化の患者も多くなっていますが、患者さんの安全と安心に応えるよう一丸となり日々関わっています。

看護師は、20名で、そのうちの半分以上が20代の看護師です。若い元気なパワーと熟練されたスタッフたちのやさしい笑顔と言葉かけで患者さんに寄り添うことができるよう心がけています。

小児科では、七夕やハロウィン、クリスマス会などの行事を行い、長期にわたる入院生活のなかで、子どもたちの笑顔がはじける一日となります。また、隣接する別府支援学校石垣原校と連携を取り病気と向き合う子どもたちを支援しています。

これからも病棟のスタッフ全員が協力して頑張っていくきます。

(中2病棟看護師長 帯刀 佐智代)